

**大原中学校だより** 令和6年3月5日 第33号 校長 柴田美由紀

【大原中学校の教育目標】  
「目的意識をもって自ら学び、心豊かに逞しく未来を拓く生徒の育成」



**2学年修学旅行入ロークン**  
『想い～伝えよう会話と行動で～』

2年生は2月27日(火)～29日(木)の日程で、京都への修学旅行に行ってきました。「旅行」は「三連の旅」とも言われ、事前の旅、本番の旅、事後の旅からなり、極めて目的的な性格があります。事前の旅とは、憧れと期待を持つこと、本番の旅とは、旅に専念すること、事後の旅とは、追憶と生活の活性化のことで、この旅行を通して、2年生は、時間や規律を守り、礼を尽くし、また、コミュニケーションを図りながら学習を深め、よりよい人間関係を築くことができ、まさに、修学旅行入ロークン、『想い～伝えよう会話と行動で～』を達成することができたように思います。

**1日目は、**新幹線で京都に到着後、向かったのは嵐山。渡月橋を眺め、竹林を散策し、古都・京都の風情と自然を堪能しました。次に向かったのが世界遺産である龍安寺、そして鹿苑寺(金閣寺)です。枯山水で知られる龍安寺の石庭では、子どもたちは、事前の学びの成果を発揮していました。室町時代足利義満により造営された鹿苑寺(金閣寺)も含め、それらの迫力に圧倒され、当時の技術力の高さに大いに感銘を受けました。その後ホテルに向かい、夕食後は京都駅を散策し、イルミネーションと夜景を楽しみました。

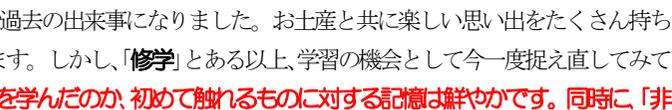
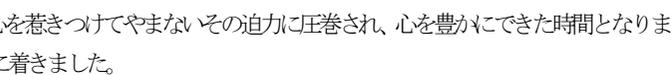
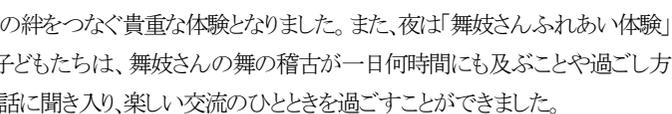
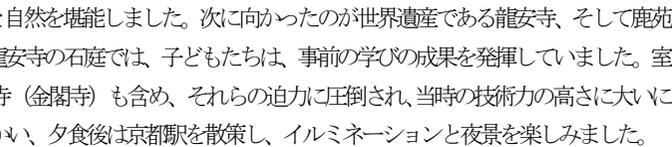
**2日目は、**京都市内の班別自主研修でした。班ごとに渡された携帯電話をもって、バスや電車を乗り継いで見学地を巡るといった研修でした。互いに協力し合い、全班が見事、時間内に無事ホテルに戻ってくることができました。京都の歴史や文化に触れながらの学習は、子どもたちに今と古の時をつなぎ、同時に、班の仲間との絆をつなぐ貴重な体験となりました。また、夜は「舞妓さんふれあい体験」をしました。舞妓さんの舞に陶醉した子どもたちは、舞妓さんの舞の稽古が一日何時間にも及ぶことや過ごし方など、自分たちの生活とはかけ離れた話に聞き入り、楽しい交流のひとつを過ごすことができました。

**3日目は、**お世話になったホテルの方々に見送られながら、各自が希望した京都市内体験学習、具体的には、念珠作り、清水焼マグカップ絵付け、清水焼湯飲み絵付けに向かいました。短時間でしたが、実際作品を作ることを通して、日本の伝統文化に触れることができました。その後、朱色の社殿や鳥居が立ち並ぶ伏見稲荷大社と1001体の千手観音像が並ぶ国宝三十三間堂に向かいました。参拝者の心を惹きつけてやまないその迫力に圧倒され、心を豊かにできた時間となりました。その後は京都駅に向かい、帰路に着きました。

待ち望んでいた学校行事も、もはや過去の出来事になりました。お土産と共に楽しい思い出をたくさん持ち帰ってきてくれたようで嬉しく思います。しかし、「修学」とある以上、学習の機会として今一度捉え直してみたいのです。そこで何に会い、何を学んだのか、初めて触れるものに対する認識は鮮やかです。同時に、「非

2年生は2月27日(火)～29日(木)の日程で、京都への修学旅行に行ってきました。「旅行」は「三連の旅」とも言われ、事前の旅、本番の旅、事後の旅からなり、極めて目的的な性格があります。事前の旅とは、憧れと期待を持つこと、本番の旅とは、旅に専念すること、事後の旅とは、追憶と生活の活性化のことで、この旅行を通して、2年生は、時間や規律を守り、礼を尽くし、また、コミュニケーションを図りながら学習を深め、よりよい人間関係を築くことができ、まさに、修学旅行入ロークン、『想い～伝えよう会話と行動で～』を達成することができたように思います。

2年生は2月27日(火)～29日(木)の日程で、京都への修学旅行に行ってきました。「旅行」は「三連の旅」とも言われ、事前の旅、本番の旅、事後の旅からなり、極めて目的的な性格があります。事前の旅とは、憧れと期待を持つこと、本番の旅とは、旅に専念すること、事後の旅とは、追憶と生活の活性化のことで、この旅行を通して、2年生は、時間や規律を守り、礼を尽くし、また、コミュニケーションを図りながら学習を深め、よりよい人間関係を築くことができ、まさに、修学旅行入ロークン、『想い～伝えよう会話と行動で～』を達成することができたように思います。



日常」の中で得られた知識や体験は、貴重なものとして皆さんの中にいつまでも残っていくことになるでしょう。この修学旅行での学びを大きな糧として、「事後の旅」の充実、つまり残り少ない2年生の生活を充実させ、来年度からは率先垂範する最上級生としての自覚と責任、行動に大いに期待しています。

**令和5年度大原中学校 学校関係者評価を受けて(評価結果と改善の具体的方策)**

※自己評価の値は、4段階評価(1低～4高)の平均値

項目	学校の自己評価	評価結果 (学校運営協議会)	改善の具体的方策 (学校)
未来へ向かう心への育成		・生徒会を中心に話し合い地域の参画活動を推進することに地域の明るい未来を感じます。 ・特に地域への貢献、参画活動は生徒会を中心とした取組を継続して欲しい。	・「志」を大切に主体的活動の充実のため、生徒の地域への貢献・参画活動を生徒会を中心として推進する。 ・学級の支持的風土づくりや良好な人間関係づくりのため、構成的グループエンカウンター等を意図的・計画的に実施する。
生きて働く知識		・気になる生徒達に先生方が共通理解して、授業改善に取り組んでおられ、実態に即した学力向上プロジェクトが行われている。	生徒の学力実態や授業評価、学力調査結果等の分析を基に、全教職員で日常的な授業改善を行う。
健康で逞しい		・健康な体の基本は食事も大きな要因であり、郷土料理のレシピ公開や給食指導はとても意義のある事である。 ・今年の災害を受け、日頃からの地域との連携、訓練の大切さを感じた。	・ラブアース・クリーンアップで清掃活動とともに防災教室や車椅子体験を行うなど、地域と連携した取組の充実を図る。 ・地産地消や郷土料理に生徒が興味を持つよう、栄養教諭が中心となり、レシピの公開や給食便りを発行する。
地域づくりにも関与		・学校運営協議会に生徒会役員が参加してもらい、生徒の生の思いを聞き、地域と学校との繋がりが深まった。 ・生徒さんが地域の宝として有事の際の「力」であることを教育していただきたい。	・地域で実施されている行事やボランティアの要請などについて、生徒が主体的に地域の情報を発信し、自発的に参加をするような取組を充実させる。
ICT活用力の育成		・情報モラル教育を充実させ、「フェイク」を見破る力を是非つけていただきたい。 ・これからの時代必要不可欠の教育内容であり、先生も生徒も一緒に向上されることを望みます。	・情報モラルに関する事例等を、全教職員で共通理解し、授業の中での情報モラル教育の推進を図る。 ・タイピングについて各学年で目標とする数値を設定し、生徒の主体的な取組となるよう工夫する。
個に応じた学びの充実		様々な支援を要する生徒の実態があります。個に応じたより効果的な関わりができるように組織的な取り組みを期待しています。	・コーディネーターを中心とした部会を定期的に開き、話し合った内容をSC、SSWと連携し実践していく。 ・取組の好事例を周知することで、さらにその取組が広がっていくよう発信の場を設定する。
教職員の資質向上		・若年、中堅、ベテラン先生それぞれの得意な分野を活かして子供達に教えて欲しい。 ・資質向上に向けて日常的な取り組みがなされており、それぞれの先生方のキャリアステージに合わせた機会を多く設けていただきたい。	・提案型授業研究を実施し、若年、中堅、ベテランそれぞれの先生方の授業技術を学ぶことを意識したグループ別、学年別の授業研究を設定する。
実施した9年間の振り返り		・小学校、中学校の垣根を越えて色々な情報の共有は大切。 ・小・中学校、それぞれの実態を共通理解し、うまく連携した指導が行われるよう工夫していただきたいです。	・小中合同研修会を設定し、学習規律や学習状況を共有する。さらに、全国学力学習状況調査・県学力調査の結果分析を共有する場面を設定していく。
働き方改革の推進		・学校の業務の中で省けることを少しでも省いて、時間外勤務を減らしていただきたい。 ・「ノー部活デー」「定時退校日」を定期的に設ける取組は、継続して実践していただきたい。	・勤務状況や業務改善について、協議する場を設定し、業務分担や業務内容の見直し・削減について、学年や分掌間で調整する。
啓人権推進と和育の		・人権の視点に立った教育活動がなされていると思います。生徒達の意識と行動がさらに高まっていくよう地域でも関わってほしい。	・情報モラルに関する内容を道徳科のカリキュラムに位置づけ、SNSに係る人権問題等に関して子どもの発達段階に応じた教育を進める。